

# 動労千葉を支援する会

## ニュース

2023 4.15  
380

動労千葉を支援する会事務局

千葉市中央区要町2-18 DCC会館

Fx 04nr(2022)78220

メールアドレス dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

〒口座番号 0015013192036

### CTSの超低額回答、

### 絶対許すな！

CTSは4月5日、今年度の新賃金について回答した。ベア約千円前後。契約・パート社員はゼロ回答だ。

動労千葉は翌日の6日、春闘第2波の闘いとしてCTS本社抗議行動を行った。

基調報告で渡辺書記長は「戦争、原油高、物価高が労働者の生活を圧迫し、生活すらままならないところに来ている。求められているのは特別支援一時金ではなく賃金の底上げだ。現場で働く者、とくに若い社員が将来展望を見いだせる会社にするためには、闘う労働組合の復権が必要だ」と訴えた。

交渉報告を北村執行委員が行い、「会社の体力がない」などと言いながら、上級管理者だけは好き放題に65歳以降も雇用延長。約800人のCTSに1

00人も管理者が必要なのか。そのほとんどはJRからの天下りだ。現場を食い物にするCTSの腐りきったあり方を打ち破る闘いをおこそう」と呼びかけた。

参加した組合員は、「言葉を失うような低額回答だ。組織拡大で勝負する」会社のやることに怒りしかない、「本社を削れば現場の賃金は上げられるはずだ」と弾劾した。

動労千葉を支援する会の山本事務局長からの熱い連帯アピールを受け、最後に関委員長がまとめを提起し、「動労千葉は『官製春闘ではなく、労働組合の力で賃上げを勝ち取る』と訴えてきた。職場で闘い、組織拡大で過半数をかちとり、その力で大幅賃上げをかちとろう」と呼びかけた。

渡辺書記長の音頭でCTSにシュプレヒコールを叩きつけ、抗議行動を締めくくった。



## 4・6 CTS本社に怒りの抗議行動

# 「23春闘」は何を示しているのか？

闘う労組なしに生きられない時代 労働者の新たな反乱の予兆

## おかしな「春闘」

23春闘は、ある意味で歴史を画するものとなった。

年末年始から首相・岸田が「賃上げを各社に求める」と表明し、経団連が「賃上げは企業の社会的責務」などと呼応した。集中回答日3月15日を待たず、大手企業が「満額」、または組合要求を上回る回答を出した。

賃上げが、あたかも政府や会社による「恩恵」であるかのような雰囲気、マスコミをあげて演出された。これは労働組合の存在意義の抹殺、労働者から階級的な視点を解体し奪いつくす攻撃として意識的に展開されたものだ。

## 実質は現状維持か賃下げ

しかし、結果を冷静に見れば、これらはきわめてインチキなものだ。平均賃上げ率3・76%、「30年ぶりの水準」と報道されているが、物価上昇率（1月4・1%、2月3・1%）<sup>1</sup>電気代抑

制政策がなければ4・3%と言われている）と比べれば、一部大手企業ですら実質は現状維持程度だ。また、グローバル展開する一部上場企業が、人材獲得競争で大敗北する中で否応なしに賃上げを迫られた側面も強い。

そもそも、昨今の凄まじい物価上昇と比して連合の要求水準がお話にならないほど低い（だから「満額」）。しかも、過去30年間、連合が資本と一体で徹底的な賃金抑制に加担してきた（だから「30年ぶり」）。「上がる」にせよ、「上がらない」にせよ、これまでと同じ政労使の「出来レース」にすぎない。そこに現場労働者の存在はなく、1ミリの闘いも行動もない。



## お先棒をかついだ連合・芳野

そのお先棒をかついだのが連合会長・芳野だ。連合は「経済・社会の原動力となる『人への投資』をより一層積極的に」「国内投資の促進と産業基盤の強化」「成長と分配の好循環」（経労委報告と）方向性は一致している」と発言。まさに、岸田や財界のものとも見まがう発言だ。

3月15日の集中回答日には、あろうことか芳野は政労使会議に臨んだ。きわめて異例のことだ。どんな御用労組幹部も、この日ばかりは「交渉を重ね会社側から少しでも回答を引き出す」と奮闘ぶりを組合員にアピールしてきたものだ。

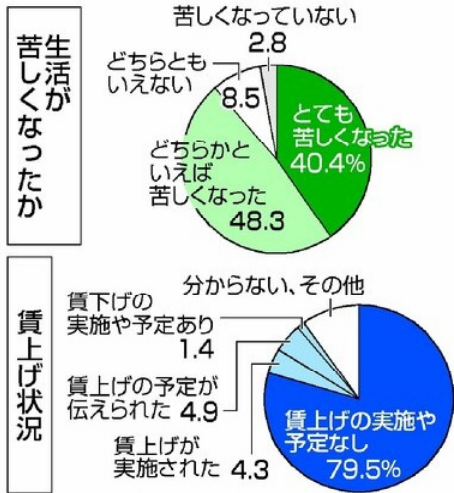
賃金水準も国家が政策として決める。労働組合はそれに率先協力する。連合の今の姿は、戦前の大政翼賛会、産業報国会まであと一步と感じさせる。

逆に言えば、労働者支配にとって連合が果たしてきた役割は完全に消滅、崩壊した。

## 春闘「前半」と「後半」の落差

こうした状況に反し、中小を中心とした春闘後半は極めて厳しいものとな

## 非正規労働者の賃上げについての調査結果



つた。「大企業の満額回答は中小企業の犠牲の上に成り立っている」「大企業は取引先の中小にコスト上昇分の価格転化を十分に認めてきたとは言いがたい」（日刊ゲンダイ）。ニュースでは「賃上げなど、どこの話が」の声があふれた。

### 格差拡大「春闘

とりわけ非正規雇用者の賃上げ実施率は55・7%（東京商工リサーチ）。しかも水準はきわめて低い。日本郵政は、正社員に平均4800円のべア、非正規職労働者にはゼロ回答だ。JR各社は、本体も軒並み極めて低額回答だが、グループ会社においては話しにならない超低額回答が並んだ。まさに「格差拡大」春闘そのものだ。

95年日経連報告（「労働者の9割を非正規に」が言つように、世の大半の労働者には賃上げなどない、まさに「生かさず殺さず」と言わんばかりの飢餓賃金を強制すると宣言するものだ。

## 世界のストの嵐が

### 日本にも波及しつつある

他方、23春闘は、明らかに新たな労働者反乱の予兆を確実に示した。この数年来、世界を覆いつくしている労働者反乱、ストライキの嵐が日本にも波及しつつある。

4つの個人加盟ユニオンが呼び掛け「非正規春闘」が展開された。かつや、スシロー、スーパー、コールセンター、語学学校、学習塾など働く労働者が一律10%の賃上げを求め初めて共同でストライキに立ち上がった（3・9）。JRAでは既務員らの属する4組合がストライキを通告、1組合がスト回避したものの、3組合がスト実施し（3・18）改悪された賃金制度の廃止を要求した。

医療労働者の全国規模のストライキも展開された。労働環境改善、賃上げ、スタッフ増員などを求め「自己犠牲も

限界だ」と公然たる闘いに立ち上がった。理研では、8割近い非正規の研究職員、事務職員が業務を支えているが、「無期転換ルール」の趣旨に反して5年や10年で雇い止めを宣言した理研に、雇い止め撤回を求めストライキに立ち上がった（3・29）。

連合の存在によって労働組合や団結して闘うことに希望を見いだせず、抑え込まれてきた労働者の怒りの爆発が始まっている。

連合幹部は、「ストをしても国民から支持されない」と言っているが逆だ。ストライキをとりまく意識は間違いなく変わっている。労働者が意を決してストに立てば、それは圧倒的に支持される状況が広がっている。

闘う労働組合なしに、大半の労働者は文字通り生活していくことすらできない時代が到来した。

こうした中で、小なりとはいえ「賃上げや労働条件をかちとるのも、戦争を止めるのも、労働者の団結した闘いの力だ」ということを示した動労千葉の3・18、19春闘ストライキの意義は限りなく大きい。

闘う労働運動の再生にむけ、確信も固く闘おう。

# 久留里線と地域を守る会を結成!

## 久留里線廃線反対署名15千筆を突破!

3月26日、久留里駅前の上総公民館において、「久留里線と地域を守る会」の結成総会が開催され、久留里線沿線の住民をはじめ内房線と地域を守る会、外房線と地域を守る会、木更津支部組合員や内房地域のOBなど80名が参加し、地域にとって不可欠の公共交通機関である久留里線の廃線化を許さず、地域の活性化に向けて活動を行うことを確認するなど、JRと国が一体で進めるローカル線廃線攻撃に対する地域からの反撃の第一歩をしるした。」

### 「久留里線を守りたい」との

### 強い声を受けて活動スタート!

結成総会のはじめに、災害により10年以上も不通になっていた只見線の復旧に向けた地域の人たちの強い思いや活動などを記した映像が上映され、この中で「鉄道が廃止されて栄えた町はない!」との言葉が象徴的であった。結成準備会を代表してあいさつにたった三浦久吉さんは、「内房線・外房線の会の皆さんなどに助言をいただきながら今日の結成にいたることができた。JRは『久留里線は赤字だ。100万円稼ぐのに2億8千万円の経費がかかると言っている。しかし久留里は電

山間は5時間以上も列車がなく利用しなくてもできない状況をJRがつくっている。一方、地元ではボランティアで駅舎清掃などを30年以上もやってきた。それを赤字だから廃線と言われても受け入れられない。

12月4日の上総地域集会で「久留里線を守りたい」との強い意見をを受けて地元を中心に呼びかけ人を募って「久留里線の廃線に反対する署名」の取り組みを開始し、現在、5千筆以上が集まっている。

結成総会后、JR千葉支社に提出したい。鉄道と地域を守る運動として活動していきたいので協力をお願いします」と力強く訴えた。議事に入り、経過報告、規約制



定、23年度活動方針案、23年度予算案、23年度の役員が提案され、質疑応答の後、参加者全体の拍手で採択された。最後に、「久留里線の一部を切り取り、営業収益を理由に廃線化を進めることは許されません。結成総会を出発点として、廃線反対の署名運動をはじめ様々な活動を推進し、JRはもとより沿線の各自治体や国交省、千葉県などに対して積極的に要請活動を行っていきます」との結成アピールを全体で採択し、久留里線と地域を守る会結成総会は成功裡に終了した。

### JR久留里線存続求め

#### 沿線住民ら、守る会設立

厳しい現状を踏まえ、国の特別天然記念物である久留里線沿線住民ら、久留里線と地域を守る会を設立し、沿線住民ら、守る会設立を求め、JR千葉支社に提出する署名運動を開始した。市役所後援していき



# 追悼 葉山岳夫

## 動労千葉顧問弁護団長

3月10日、動労千葉顧問弁護団長として永年にわたり私たちの闘いを支えて下さった葉山岳夫先生が急逝されました。謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈りいたします。本当にお世話になりました。

葉山先生が弁護団として動労千葉の闘いに参加して下さったのは、船橋事故（1972年）闘争以来のことです。それから実に半世紀以上にわたり多大なるご指導、ご支援をいただきました。先生の姿は、裁判や労働委員会だけでなく、あらゆる闘いの現場にいつも共にありました。それは、単に組合と顧問弁護士という関係をこえたものであったように思います。本当にありがとうございました。



つねに誠実・実直で、どんな困難なときも真つすぐぶれることのない葉山先生の姿勢は私たちにいつも勇気や安心感を与えてくれました。動

労千葉の組合員はそんな葉山先生が大好きでした。

共に闘いぬいた半世紀の歩みの中でも、最大の歴史的な裁判闘争となつたのは、国鉄分割・民営化攻撃をめぐる公労法と採用差別による二つの解雇撤回闘争でした。

公労法による28名の解雇事件は、1996年に全員の解雇を撤回する形で勝利的和解をかちとり、国鉄1047名解雇撤回闘争では、様々な紆余曲折や、動労千葉以外の争議団が闘いの旗を降ろしてしまう困難な状況の中で、30年にわたる闘いを経て、ついに「不採用基準」そのものが不当労働行為であったことを最高裁に認めさせ、一からやり直した労働委員会闘争も、ついに証人採用をかちとって、『歴史的勝利まであと一步』という段階でした。

その長い長い闘いの全過程をけん引して下さったのが葉山先生でした。この地平は、葉山先生の献身的な努力なしには絶対にかちとることができませんでした。

いよいよ国鉄分割・民営化攻撃の間

の部分全部暴き出すぞという時に、葉山先生もどれほど無念な思いでいることか、それを考えると本当に残念でなりません。

2月21日に動労千葉の弁護団総会があつたのですが、葉山先生は「千葉に行くんだ」と言つて病院をぬけたそうとしていました。病床にありながらそこまで私たちの闘いに心を寄せて下さつていたのです。

葉山先生にいただいたご恩、そしてその熱い思いは絶対に忘れません。国鉄1047名解雇撤回闘争にも絶対勝利します。

戦争が世界をのみ込もうとしている情勢です。怒りの声は社会の隅々に積みあがり沸騰しようとしています。この時代に葉山先生だったら何と言つたのか。嵐に向かつて高く高くさかまいて飛ぶときだと言つたに違いありません。動労千葉は、葉山先生が人生をかけておしえて下さったことを胸に闘い続けます。これからも私たちの闘いを見守つて下さい。

3月24日

国鉄千葉動力車労働組合

# 非正規職撤廃」は、全世界の労働者の課題

## AGC解雇撤回へ韓国から遠征闘争団来日！

### AGC株主総会闘争

3月30日、コロナ禍で日本の支援共闘のみで闘われていたAGC株主総会闘争に、韓国から3人の遠征闘争団の仲間が来日しました。夕方は「違法派遣糾弾！AGCは正規雇用せよ！30旭支会支援共闘集会」が亀戸・カメリアで開催されました。つづく31日には、AGC本社抗議申入れ行動を行い、AGCは担当者不在として今回も対応を拒否、抗議行動を展開しました。その後、遠征闘争団は関西へ移動し、AGCの尼崎・関西工場で宣伝行動を行い、関西の支援共闘の仲間と交流を深めました。



### ユン政権は労組弾圧やめろ！

韓国民主労総・旭非正規職支会の解

雇撤回・職場復帰をかけた闘いは9年を迎えようとしています。AGC（旭硝子）の違法派遣（韓国では製造業への労働者派遣は違法）を断罪する闘いが前進し、地位確認訴訟1審2審、違法解雇の損害賠償裁判、派遣法違反刑事1審で組合の勝利判決が続き、最高裁での勝利判決が出て、組合員が正社員として職場復帰を果たす日は近いと思われるようになりました。

ところが2月17日、テグ高裁は派遣法違反の刑事裁判で被告のAGC韓国に逆転無罪判決を出して衝撃が広がりました。「民主労総を北朝鮮のスパイ」とでつちあげ弾圧を強行するなど、ユン・ソンニョル政権の労働組合敵視政治が進行しているからです。

「非正規職撤廃」は、新自由主義の攻

撃の中で全世界の労働者の共通の入口ガンとなつていきます。動労千葉の外注化阻止闘争の核心でもあります。労働者の国境をこえた団結で戦争に反対し、労働者がまともにも生きている社会を建設するために、韓国の労働者と団結して勝利しよう。

## ブラジル・コンルータスの仲間が動労千葉訪問



3月24日、長らく連帯関係を重ねてきた来日中のブラジル・コンルータス（全国闘争連盟）の仲間が、DC会館を訪問。関委員長、田中顧問、支援する会事山本務局長らと、公的部門の民営化攻撃、世界を覆う戦争情勢などについて懇談を行った。